

令和2年  
(2020年)

春号

# 大津・南部の農業

## ●発行●

滋賀県大津・南部農業農村  
振興事務所農産普及課  
草津市草津三丁目14-75  
TEL 077-567-5421~5423  
FAX 077-562-8144  
メールアドレス  
ga35@pref.shiga.lg.jp  
Facebook  
https://www.facebook.  
com/facetoagri.o.n/  
発行責任者 山本 孝司

この印刷物は古紙パルプを配合しています

## 地域が「魅力ある農地」となるために!

農業の「担い手」が高齢化し、2015年農業センサスでは、本県農業を支えている主体は平均年齢で約68歳、農業従事者の84.7%が60歳以上になっています。

10年後、水田を荒らさないためには、耕作者だけではなく集落住民も協力して経営体の急速な規模拡大を支える必要があります。当管内の集落農業法人においても、常時雇用や常勤の経営者を採用して(表)、経営体質強化による持続性のある農業経営に取り組んでいる先進的な事例があります(写真1、2)。これらの事例は、地域から評価され農地を守る参入者のやる気につながっています。

基盤整備ができていだけでは、もはや誰もが参入したいと思う農地とは言えない状況です。耕作地の団地化や隣接ほ場との合筆(畦畔除去)、水管理やあぜ草刈作業を地主等が管理する体制の構築など、農業経営の効率化は地域や地権者の協力なしでは進まなくなっています。地権者は「農地を預けたのだからもう関係ない」という意識ではなく、限られた耕作者がその能力をフルに発揮できるよう、魅力ある受け入れ体制を整えるために耕作者と一緒に考えていきましょう。



(写真1) 常勤役員が集落営農の経営に参画  
(「農事組合法人 にしきの郷」 野洲市)



(写真2) 常勤の従業員が活躍  
(「農事組合法人 上砥山営農組合」 栗東市)

(表) 管内の集落営農組織の形態と従事者の状況

組織形態	大津	草津	守山	栗東	野洲
集落営農組織数	18	5	16	19	29
(内訳)					
株式会社					1
農事組合法人	8	3	4	5	2
任意組織	10	2	12	14	26
※「主たる従事者」のいる組織	13	1	16	19	29
うち、常勤従業員や常勤経営者がいる組織(当課の把握分)			2	1	1

※1 H30 集落営農実態調査(農水省)のデータから当課が作成

※2 「主たる従事者」：農業経営基盤強化促進法に基づく市の基本構想に定めた所得水準を  
目指す者または水準に達する者

# 小麦の“大幅な収量向上”を目指して 『生育後期重点施肥技術』に取り組んでみませんか

近年、小麦の大幅な収量向上技術として注目され、当管内で取組が始まった『生育後期重点施肥技術』について紹介します。

## 1. 『生育後期重点施肥技術』とは…

本技術はこれまでのように11月～1月の施肥量を多くし、早くから莖数を確保することで収量向上を図る栽培とは大きく異なり、2月以降の施肥に重点を置くこと(図1)で、以下の2点を実践し、大幅な収量向上(図2)を図るものです。

- ①初期生育を抑え、無駄な茎を作らない。
- ②2月以降の葉色を濃く維持することにより、穂数や穂長を確保する。

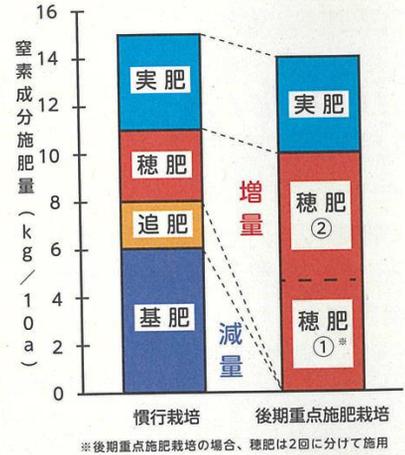


図1. 施肥のイメージ図

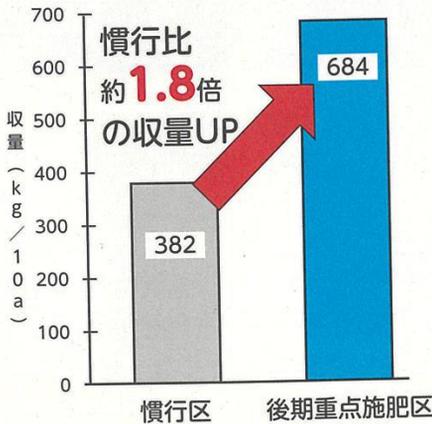


図2. 管内における実証結果  
(平成30年産、農林61号、播種日：11月5日)

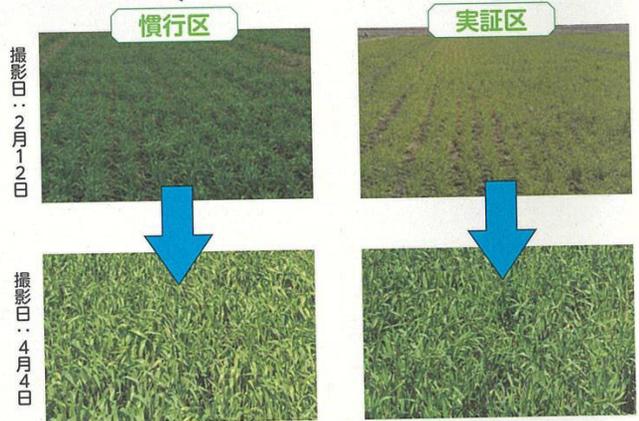


図3. 実証試験における生育状況  
(令和元年産、農林61号、播種日：11月1日)

## 2. 取り組むメリット

- ①500～600kg/10aの単収が期待できる
- ②特別な機械や資材を必要としない
- ③肥料代が削減できる
- ④播種時の作業時間を削減できる

## 3. 栽培上の注意点

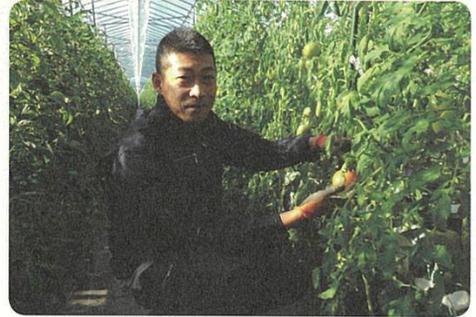
- ①穂肥施用の労力が増える
- ②適期の穂肥施用が重要である
- ③初期生育が劣るため、適期の雑草防除が必要である

本技術について、詳しく知りたい方は当課までお問い合わせください。

# 私たちががんばっています! ~活躍中の 青年農業者の方々~

## 大津市 うえだ ゆうすけ 上田 雄亮さん

上田さんは、平成30年度に県立農業大学校就農科で学ばれたのち、トマトの少量土壌培地耕(1,170㎡)、タマネギ(約26a)および水稲(約2.8ha)の複合経営を開始されました。台風で大きな被害に遭われましたが、「まずは安定的に生産したい」と前向きに取り組んでおられます。大津市の若手生産者として、これからの活躍が期待されます。



## 大津市 はやふし ひろき 早藤 宏紀さん

早藤さんは、2年間、県立農業大学校養成科で学ばれたのち、平成31年3月からトマトの少量土壌培地耕(750㎡)で経営を開始されました。大津市青年農業者クラブ『季楽里』でも活動されています。「自分の作ったトマトを美味しく食べてもらいたい」と日々作業改善に取り組んでおられ、今後の活躍が期待されます。

## 草津市 うの たつや 宇野 達哉さん

宇野さんは、平成30年度に県立農業大学校就農科で学ばれたのち、イチゴの少量土壌培地耕(910㎡)で経営を開始されました。初収穫に向け、育苗管理に励むとともに、栽培用のベッドを自家施工するなど精力的に取り組まれています。市街化の進んだ草津市内での貴重な農業者として今後の活躍が期待されます。



## 守山市 よしだ よしみ 吉田 佳美さん

吉田さんは、平成30年度に県立農業大学校就農科で学ばれたのち、有機質肥料を用いたイチゴの高設栽培(1,650㎡)で経営を開始されました。農業をするため、6年前にご夫婦で東京から移住され、現在はご夫婦でイチゴを管理されています。「お世話になった滋賀(守山)のイチゴを東京で宣伝したい!」と品質のよいイチゴ生産に向け、いきいきと作業されており、今後ますますの活躍が期待されます。

## 新たな獣害対策で集落の活性化を目指す! ~大津市栗原~

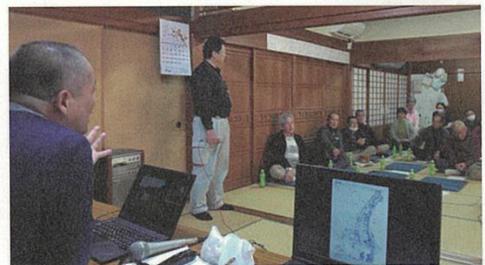
管内の中山間地域の野生獣による農作物被害は柵の整備等で減少傾向にあります。集落によっては、依然として生産意欲の減退を招く要因となっています。大津市北西部に位置する栗原地区でもサル等の被害があり、獣害対策の専門組織を設置して日々奮闘されています。その中で今年取り組まれた対策について紹介します。

### 1. ICTを活用した新たなサル対策の取組

栗原地区では、柵はあるものの菜園をねらってサルが集落へ出没していました。そこで、三重県のNPO法人が開発したウェブシステム「サルどこネット」(利用料無料)を活用した追い払いの強化に着手されました。このシステムは登録会員がサルを目撃した場所、時間、移動方向などを携帯電話から発信し、集落で出没情報を共有することでサルに対する警戒を促すものです。近隣集落にも呼びかけ、現在有志10名が会員となって集落を超えた活動が行われています。

### 2. 研修会で獣害対策の意識啓発

防護柵は設置されていますが、柵の維持管理など獣害対策を継続していくため、毎年獣害対策研修会を開催されています(写真)。昨年は、柵下部からのイノシシの潜り込みを防ぐ新技術「目隠しネット」の効果実証に協力されるなど、積極的に取り組まれています。



(写真) 獣害対策委員会主催の研修会

## 農業排水、農作業事故の対策を!

### 1. びわ湖にやさしい農業を!

代かき・田植えの時期は農業排水の流出による琵琶湖への影響が懸念されます。流出を防ぐため、①田面を均平にする作業、②畦畔、排水口からの漏水を防止する、③適量入水による浅水代かきを励行する、④田植え直前の落水はしないの4項目を徹底しましょう! 緩効性肥料に使用されている「被覆肥料殻」の流出にも注意が必要です。上記4項目に加えて、ほ場に浮いている殻を網で回収するなど、流出防止を心がけてください。

また、肥料袋やあぜ板などの「農業用プラスチック」は、不法投棄や野焼きを行った場合、法令違反となり罰則の対象となります。使用後は風などで飛散しないよう注意し、適切に処分しましょう!



滋賀県イメージキャラクター  
「うおーたん」

### 2. 農作業事故を防ぐために

農業機械の事故防止のため、周囲の安全確認と適切な装備の装着を心がけましょう!

また、例年、全国で熱中症による農作業中の死亡事故が発生しています。作業時は、こまめな水分補給・休憩や通気性の良い衣服の着用など十分に対策を行いましょう!